

■ 一般目標 (GIO)

歯科補綴治療としてのクラウン・ブリッジ，部分床義歯および全部床義歯などの製作までの臨床ステップや破損，不適合時の補修の方法を理解し，その際に使用する器具，材料について学修する。

■ 到達目標 (SBOs)

歯科補綴治療において， 歯科衛生士が行う診療補助や補綴装置の清掃，取扱いなどの患者に対する指導について説明できる。

■ 教科書：1. 歯科補綴学 (医歯薬出版)

- 参考書：1. 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴第2版 (医歯薬出版)
2. 歯科補綴学と診療補助 (クインテッセンス出版)
 3. 歯科補綴マニュアル (南山堂)
 4. 歯冠修復と欠損補綴の治療と診療補助 (永末書店)
 5. 歯科診療補助論 第2版 (医歯薬出版)
 6. 歯科衛生士国家試験ポイントチェック③ (医歯薬出版)
 7. 歯科衛生士国家試験ポイントチェック④ (医歯薬出版)

■ 授業時間： 水曜日 9:00 ~ 10:50

■ オフィスアワー：伊藤 智加 (itou.tomoka@nihon-u.ac.jp)

水曜日 17:00~18:00 補綴Ⅰ講座医局

加藤 勲 (katou.isao@nihon-u.ac.jp)

水曜日 17:00~18:00 補綴Ⅱ講座医局

小林 達朗 (kobayashi.tatsurou@nihon-u.ac.jp)

水曜日 17:00~18:00 補綴Ⅲ講座医局

■ 授業の方法：教科書の内容を中心に，視覚教材を利用した授業形式で進める。毎回，演習・レポートを実施する。

■ 準備学習・準備学習時間：シラバス記載の「授業計画」内容を確認し，あらかじめ教科書の該当箇所を一読し，不明な専門用語は事前に調べ，質問事項を整理し，授業に臨むこと。また，授業で行った演習課題を見直すこと。予習と復習それぞれに講義時間と同等の時間を充てること。

■ 成績評価方法：定期試験(100%)を基本とし，授業内で確認テストを行った際にはそれも参考とする場合がある。

■ 注意事項：早朝の講義であるが，15分前には受講できる環境を整えること。

■ 実務経験：伊藤 智加：現在，日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅰ講座に在籍しており，全部床義歯の治療の経験を基に本教科における内容の理論と実際について学修する場を提供したいと考えている

加藤 勲：現在，日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅱ講座に在籍しており，部分床義歯の治療の経験を基に本教科で学修する内容の理論と実際について学修する場を提供したいと考えている。

小林 達朗：現在，日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座に在籍しており，特に歯冠補綴の経験を基に本教科で学修する内容の理論と実際について学修する場を提供したいと考えている。

■ 予定表

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第1・2回 4月8日 伊藤 智加	歯科補綴学総論 1 1) 意義と目的 2) 補綴装置の種類と適応 3) 診療の補助 4) 歯科技工との関連 歯科補綴治療の基礎知識 5) 歯列の形態と位置的関係 6) 顎口腔系の機能 無歯顎者に対する補綴装置 ・義歯装着の目的 ・無歯顎者の診査	<ul style="list-style-type: none"> ・補綴治療の特徴を説明できる。 ・クラウン・ブリッジ，部分床義歯，全部床義歯，インプラントの分類と適応について説明できる。 ・直接行為と補助行為について説明できる。 ・技工との関連を学び，治療前，治療中，治療後の患者に対しての指導について説明できる。 ・天然歯列の特徴，咬合彎曲，基準平面，対合関係などについて，また歯の喪失後の顎堤（歯槽部）に起こる変化と隣在歯，対合歯への影響について説明できる。 ・顎口腔系の基本機能に関する知識とこれらの機能時の歯や歯周組織の役割を説明できる。 ・無歯顎者が装着する人工臓器であることを学修する。 ・総義歯の目的別分類（最終義歯，暫間義歯，即時義歯等）を理解する。 ・構成要素（人工歯，義歯床） ・総義歯を装着することの意義を学修する。 ・歯の喪失に伴う顔貌，顎堤形

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
		<p>態，歯槽骨および感覚の変化について学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無歯顎堤の特徴的な解剖学的ランドマークを学ぶ。 ・ 全身疾患から局所的診査に至る経過を学修する。
<p>第3・4回 4月15日 伊藤 智加</p>	<p>総義歯の維持，安定，支 総義歯補綴治療の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前処置 2. 印象採得 <ol style="list-style-type: none"> 1) 印象法の種類と材料 2) 概形印象 3) 研究用模型 4) 個人トレー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 維持機構を物理的維持と解剖学的維持に分類して学修する。 ・ 総義歯補綴治療による機能回復度を高めるために重要な前処置について学修する。 ・ 印象法の種類と材料の特徴を学修する。 ・ 概形印象採得によって得られた印象で研究用模型を製作し，さらに研究用模型による診査・診断・義歯の設計を学修する。 ・ 個人トレーの具備条件について学修する。
<p>第5・6回 4月22日 伊藤 智加</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2. 印象採得 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精密印象 2) 作業用模型 3. 咬合採得 <ol style="list-style-type: none"> 1) 目的と意義 2) 咬合床 3) 仮想咬合平面の設定 4) 垂直的顎間関係の設定 5) 水平的顎間関係の設定 4. フェイスボウ 5. 咬合器 6. 総義歯の咬合 	<p>精密印象採得の材料および方法について学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業用模型の製作法，目的，意義，緩衝法，後堤法およびブロックアウトについて学修する。 ・ 無歯顎者の顎間関係の設定について学修する。 ・ 咬合床の具備条件および基礎床と咬合堤について学修する。 ・ 審美性回復，下顎運動との調和，人工歯排列，咬合平衡の観点から仮想咬合平面の設定および垂直的顎間関係の設定を学修する。 <p>水平的顎間関係の設定を下顎運動と関連して設定する方法を学修する。</p>

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
		<ul style="list-style-type: none"> ・ フェイスボウの構造と種類を学修する。 ・ 咬合器の種類と役割について学修する。 ・ 咬合様式について学修する。
第7・8回 5月13日 伊藤 智加	7. 人工歯選択 8. 人工歯排列 9. 歯肉形成 10. ろう義歯試適 11. 埋没, 重合 12. 咬合器再装着, 咬合調整 13. 研磨 14. 新義歯装着 15. アフターケア 16. 特殊な総義歯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人工歯の種類を理解し, 目的とする咬合様式や顎堤形態に合致した人工歯選択について審美的な点もふまえて学修する。 ・ 人工歯排列の理論と術式を学修する。 ・ 歯肉形成が審美的, 機能的および衛生的条件を満たす必要性とその意義を学修する。 ・ 審美性回復, 構音機能, 咬合関係などの役割を学修する。 ・ 研磨の重要性を学修する。 ・ 装着時の調整, 患者指導について学修する。 ・ 定期診査の有無が義歯の予後を左右することを学修する。 ・ 金属床義歯, 暫間義歯, 治療用義歯, 即時義歯, オーバーデンチャー, インプラント義歯, 顎義歯について学修する。
第9・10回 5月20日 加藤 勲	歯科補綴学総論2 ・ 顎運動関連 ・ 歯の欠損に伴う障害と補綴治療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下顎の運動様相について説明できる。 ・ 下顎限界運動について説明できる。 ・ 咬合様式を列挙できる。 ・ 歯の欠損に伴う口腔内の変化, 身体的障害, 心理的障害, 社会的影響について説明できる。
第11・12回 5月27日 加藤 勲	部分床義歯の特徴と構造(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分床義歯の特徴を説明できる。 ・ 部分床義歯の種類について列挙できる。 ・ 部分床義歯の構成要素(支台装置)について説明できる。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
第 13・14 回 6月 3 日 加藤 勲	部分床義歯の構造 (2) と働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分床義歯の構成要素（連結子・人工歯・義歯床）について説明できる。 ・ 部分床義歯の構成要素の働きが説明できる。
第 15・16 回 6月 10 日 加藤 勲	部分床義歯治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分床義歯治療の診査・診断から部分床義歯製作・装着メンテナンスに至る一連の流れを説明できる。
第 17・18 回 6月 17 日 加藤 勲	顎顔面補綴治療の実際 部分床義歯治療と患者指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顎顔面補綴装置の種類を列挙できる。 ・ 部分床義歯治療の各ステージにおける指導項目について説明できる。
第 19・20 回 6月 24 日 小林 達朗	クラウン・ブリッジおよびインプラントの総論	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウン・ブリッジの構成要素を説明できる。 ・ 顎口腔系の構造と機能を説明できる。 ・ 咬頭嵌合位における咬合接触について説明できる。 ・ 偏心位における咬合接触について説明できる。 ・ インプラントの基本的な構造を説明できる。
第 21・22 回 7月 1 日 小林 達朗	1. クラウン 1) クラウンの分類 (1) 前歯部のクラウン (2) 臼歯部のクラウン 2) 臨床のステップ (1) 診査, 診断 (研究用模型の製作)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前歯部と臼歯部の機能, 目的の相異による補綴装置の種類, 材質とその変化などについて説明できる。 ・ クラウンが製作されるまでの一連の治療操作の流れを理解し, それぞれの診療時の基本的な診療補助について具体的に説明できる。
第 23・24 回 7月 8 日 小林 達朗	2) 前処置 (支台築造) (3) 支台歯形成 (4) 歯肉圧排と印象採得 (5) プロビジョナルレストレーションの装着 (6) クラウン製作	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラウンが製作されるまでの一連の治療操作の流れを理解し, それぞれの診療時の基本的な診療補助について説明できる。 ・ プロビジョナルレストレーションの製作, 目的を説明できる。

授業日・担当者	講義項目	学修目的・到達目標
	(技工操作) (7)セメント合着 3)患者指導	<ul style="list-style-type: none"> ・咬合採得，フェースボウトランスファーについて説明できる。 ・セメント合着時の使用セメントについて説明できる。 ・クラウン周辺の歯肉への影響と清掃法について説明できる。
第 25・26 回 7月 15 日 小林 達朗	2. ブリッジ 1)ブリッジの構成と材料 2)臨床ステップ (1)診査・診断・前処置 (2)支台歯形成 (3)印象採得 (4)咬合採得	<ul style="list-style-type: none"> ・支台装置の種類と材料およびポンティックの形態の相違について説明できる。 ・ブリッジの適応性，クラウン（単冠）と異なる支台歯形成の注意点を理解し，診療補助の方法を説明できる。 ・各個トレーと既製トレーによる印象法の相違について説明できる。
第 27・28 回 7月 22 日 小林 達朗	(5)技工操作 (6)試適 (7)ブリッジの完成 (8)セメント合着 1) 患者指導 3. インプラント インプラント治療の実際を通して	<ul style="list-style-type: none"> ・ブリッジのシェードセレクション（色調選択）について説明できる。 ・鋳造，ろう着等技工全般について説明できる。 ・装着後の注意，口腔清掃の指導について説明できる。 ・インプラント治療の実際を通して，インプラント治療の基本術式を説明できる。 ・インプラント補綴の種類を説明できる。 ・インプラントに関する口腔清掃指導について説明できる。